

【イジャ】
ija!

浜松信用金庫

まち・人・文化 地域情報誌

Vol. 12 Autumn & Winter 2017

巻頭企画

浜松 オリンピック物語

● ミスターオリンピック 田畑政治の挑戦

● 地元アスリート

漢人陽子さん・橋本壮市さん・伊藤美誠さん

“ワンデイ・トリップ”への誘い
富士山西麓
恵みの水を巡る旅



きらめくひと —2

バルーンアーティスト 家泉あづささん

巻頭特集「浜松 オリンピック物語」—4

- ミスターオリンピック田畑政治の挑戦
- 地元アスリート 漢人陽子さん・橋本壮市さん・伊藤美誠さん

“ワンデイ・トリップ”への誘い —10

富士山西麓 恵みの水を巡る旅

歴史万華鏡 —14

浜松相撲風雲録

探訪 匠の現場 —17

(株)ヤマハミュージッククリエティング

ワクワクチャレンジ! —20

天浜線 鉄道のおしごと

はままつ食味紀行 —23

しそ巻き

浜松の風物詩 —24

秋葉の火まつり

色とりどりの風船を組み合わせて作品を創り出す「バルーンアート」の第一人者。東京を中心に、今や全世界に活動の場を広げていますが、浜松には自身のショップ「パニーズ バルーン ファクトリー」を置き、心は今もなお「浜松人」です。

「東京でお仕事をしていると『なまってるね』とよく言われます(笑)。こないだも『くだまし』って言ったら、相手にきょとんとされました。あげるふりをしてあげないという意味の『くだまし』を私は標準語だと思ってたんですけど、これって遠州弁なん



ですよね(笑)」

バルーンアートとの出会いは学生時代。母校の常葉学園大学の文化祭で、風船を使ってアーチを作ったり、ステージを装飾したりしたので、きっかけでした。卒業後、本格的にバルーンアートを学んで技術を高め、2000年に米国の権威あるバルーンアートコンテストで日本人として初優勝。その後も国内外のコンテストで数々の優勝を勝ち取りました。

「一番うれしかったのは、小学校1、2年生の図画工作の教科書で紹介されたことですね。全国の子どもたち

に私のことを知ってもらえ、とても光栄でした。また、アメリカ、フランス、イタリア、韓国、台湾など16カ国で、バルーンアートの講師や作品制作にたずさわっていることも、私にとって夢のような経験です」

現在の作風は、海外でも人気の高い「ジャパニーズガワイイ」スタイル。動物やお菓子などの愛らしいモチーフが中心ですが、「今後は美術館に飾られるような本格アートも目指したい。また、2020年東京オリンピックに関する仕事もぜひやってみたいですね」と抱負を語っています。



「浜松の心を忘れずに、東京や世界で活動しています」

浜松

オリンピック

昭和39年（1964年）に開催された世紀の祭典、東京オリンピック。その背景には、浜松出身の田畑政治という人物の活躍がありました。日本にオリンピックを招致した政治の業績を軸に、浜松とオリンピックの深い縁をひも解いてみましょう。

物語



ミスターオリンピック 田畑政治の挑戦

昭和39年10月10日の東京オリンピック開会式。会場となった国立競技場の上空は、一点の曇りもなく晴れ渡っていました。各国選手団の入場行進、昭和天皇の開会宣言、聖火の点火などの後、航空自衛隊の曲技飛行隊「ブルーインパルス」が飛来し、青空に白いスモークで五輪の輪を描きます。日本中が感動したこの光景を、ひととき感慨深く眺めていたの

が田畑政治その人でした。政治は、日本水泳連盟会長、東京オリンピック組織委員会事務総長、日本オリンピック委員会（JOC）会長などを歴任。東京五輪招致の立役者として「ミスターオリンピック」の異名を持ち、2019年NHK大河ドラマ「いだてん〜東京オリムピック噺〜」の主人公となっています（政治を演じるのは阿部サダヲさ



ん。その政治の生涯とは、はたしてどのようなものだったのでしょうか。

政治は明治31年（1898年）、浜名郡浜松町成子（現在の浜松市中区成子町）の「八百庄」という裕福な老舗造り酒屋に生まれました。幼い頃、夏休みを浜名湾の弁天島の別荘で過ごした政治は、一日中、海で泳いでいたといいます。やがて浜松中学（現在の浜松北高）に進学すると、政治は水泳部に入部し、浜松商業、掛川中学、見付中学の水泳部員らと泳ぎを競い合いました。

こうした地元の学校やOBからは、大正5年（1916年）、浜名湾を日本一の水泳のメッカにしようという志から「浜名湾游泳協会」を設立。当時、18歳だった政治は病気のため競技を引退していましたが、協会の設立に深く関与して後進の育成を図りました。後に同協会からは数々のオリンピックチャンピオンが誕生し、昭和初期の「水泳王国・日本」を築く礎となったのです。

政治は浜松中学を卒業後、一高を経て東京帝大（現在の東京大学）に進み、朝日新聞社に入社。政治部記者として活躍しながら有望な水泳選手の発掘・育成に尽力し、昭和7年（1932年）ロサンゼルス五輪水泳

監督、昭和11年（1936年）ベルリン五輪本部役員などを務めました。そして、第2次世界大戦後の昭和22年（1947年）には日本水連会長に就任。この時、彗星のように現れたのは「フジヤマのトビウオ」の異名で世界記録を連発した古橋廣之進（雄踏町出身）でした。当時、敗戦国の日本はオリンピックに参加できませんでしたが、政治は昭和23年（1948年）のロンドン五輪と同時期に水泳の日本選手権大会を開催。この大会で、古橋ら日本人選手はロンドン五輪を上回る世界記録を連発し、「水泳日本ここにあり」と猛アピールしました。

「いつかは東京でオリンピックを開催したい」。そんな夢を抱く政治に、やがて大きなチャンスが訪れます。昭和28年（1953年）、国際オリンピック委員会（IOC）のフレネル委員が突然来日し、政治らに面会して「オリンピックを東京でやれ。必ず成功する」と告げたのです。

かねてから各国のオリンピックをつぶさに見て、「東京でやる場合はこうする」という腹案を持っていた政治は、東京開催での直接経費を約200億円と目算。「これなら行ける」と踏んで、東京都知事や首相に直談判しました。時の岸信介首相は「やり

浜松の田畑家の人々と撮影した戦後間もない頃の家族写真。左から二人目が政治（写真提供：田畑隆久氏）





航空自衛隊の「ブルーインパルス」が天空に五輪を描いた東京オリンピック開会式(写真提供:朝日新聞社)

ましよう」と決断し、昭和39年の第18回大会への立候補が決まったのです。昭和34年(1959年)のIOC総会で、東京開催が正式に決定。政治は、東京五輪組織委員会事務総長としてIOCと交渉し、柔道と女子バレーボールを五輪種目に加えるなど、目を見張る活躍を見せました。

しかし、そんな政治の行く手には思わぬ落とし穴が待ち構えていました。組織委員として見届けます。その後も日本のスポーツ振興に貢献し、昭和48年(1973年)にはIOC委員長に就任。昭和59年(1984年)、政治はオリンピック一筋に生きた86年の生涯を閉じました。ミスターオリンピックは、2020年の東京オリンピックを間近にした現代の日本を、青空の上から静かに見守っていることでしょう。

組織委員会の内紛などのあおりを受け、大会を目前に控えた昭和37年(1962年)、政治は事務総長の座を退かざるをえなくなったのです。大会への筋書きやお膳立てをすべて整えてきた政治にとって、それは大切に育てたわが子を手放すのに等しい辛さでした。政治は、日本中を熱狂させた東京オリンピックの14日間を

——雄踏小学校1年生の時に水泳を始め、浜松商業高校の3年生だった1992年にバルセロナ五輪出場。当時を振り返って、今、どんな感想をお持ちですか。

期待された100メートルバタフライでメダルに届かず、結果的に苦しい思い出になりました。でも、いい成績を挙げられなかったことで逆に発奮し、早稲田大学に進学してさらに競技を続行。1993年のユニバーシアードに出場して、100メートル、200メートルバタフライで金メダルを取ることができました。

——選手時代、とくにオリンピック出場時は大変なプレッシャーがあったと思うのですが。

確かにそうですが、通っていた浜商の先生方にとってもよくしていただ

き、伸び伸びとした環境で練習することができました。またクラスメイトたちは、遠征で学校を休みがちなののために授業のノートを取って、帰ってきたら「はい、これ」と渡してくれたんです。皆さん本当に優しく、もし浜商に行っていないから、私はオリンピックに出られなかったと思っています。

——そんな漢人さんも現在は二児の母。お子さんたちはスポーツが得意ですか？

どうでしょう(笑)。小5の長男も小1の長女も水泳を習っていますが、将来のことは全くわかりません。ただ、上の子は2020年の東京五輪には興味を持っていて、夏休みの宿題で調べたりしています。私自身も本当に2020年が楽しみですね。



地元アスリート 1

水泳

漢人陽子さん (現姓・藤本)

地元の支え受けバルセロナ出場



1992年バルセロナ五輪の代表に選ばれ、女子400メートルメドレーリレーでは7位入賞を果たした

柔道

橋本壮市さん



浜松出身者として初の柔道世界チャンピオン

—今年8月の柔道世界選手権男子73キロ級で見事優勝。26歳で世界選手権初出場、初優勝の快挙です。

マスコミには「遅咲きの苦勞人」などと評されますが、僕自身はピチピチしたフレッシュな気持ちで戦いました(笑)。今回の優勝をスターラインに、まずは国内のライバルに勝って、3年後の東京オリンピックを目指したいと思います。

—富塚小学校を卒業後、東海大相模高等学校に入學。そのまま高校、大学へと進みましたが、浜松が恋しくなってきたことはなかったですか。

地元を離れる不安より、強豪校で柔道ができるというワクワク感の方が強かったので、寂しさはありませんでした。ずっと寮生活を送っているので、たまに母親の手料理が恋しくなることはあります。

—なることはありますけどね。それと、遠州弁はやっぱり抜けきりません。「ばかうまい」とか「どつまい」とか言ってしまうんです。それが寮内に広がり、他県出身の人が遠州弁をしやべったりするんですよ(笑)。

—浜松出身者として初めて柔道の世界チャンピオンになり、次は東京五輪での金メダルが期待されます。同一階級の最強ライバルは、リオ五輪王者の大野将兵選手ですね。

彼はこの1年間、国際試合を休んでいますが、僕はその間に成長していると思うので、次に戦うのが楽しみです。それよりも、一つひとつの試合を確実に勝ち、2020年にピクを持って行けるよう、心技体を整えることが大切。これからがまさしく本番と、気を引き締めています。



2017年の柔道世界選手権では、個人優勝とともに団体戦でも金メダルに輝いた

特集
浜松
オリンピック
物語



ツアー参戦の合間にふるさとで気分を一新

—小6の時に「2016年のリオ五輪に出て、2020年の東京五輪で金メダルを取ることが目標」と語

卓球

伊藤美誠さん

—ついています。リオでは団体で銅に輝き、目標へ大きく前進していますね。東京五輪が決まったのが小6の時

だったので、東京で優勝するにはまずリオ出場だと考え、逆算して目標を立てました。リオで、幼い頃から憧れていた福原愛さん、石川佳純さんとチームを組めたのは本当に光栄で、素晴らしい経験でした。今後は同年代の平野美宇ちゃんたちと、時にはライバル、時にはチームメイトとして、お互い切磋琢磨し、上を目指したいと思っています。

—世界ランクは現在7位。これを少しでも上げたいですね。

もちろん1位になって東京五輪に臨みたいですが、それよりも日本代表に選ばれることが先決。日本人同士

の競争は激しく、誰が選ばれてもおかしくないの、しっかり代表入りできるように頑張りたいです。

—大阪の高校に通いつつ、ツアー参戦の連続で超多忙でしょうが、磐田の実家に帰ることは。

休みが二日あれば、気分をリセットするために帰りますね。帰った時の楽しみは「さわやかなこのハンバーグ(笑)。昔から大好きで、東京や大阪にいくと無性に食べたくなるんです。それと、実家の周りは自然が豊かで空気が気持ちよく、心が落ち着きます。帰省中は、実家と「さわやか」を往復していれば幸せなんです(笑)。

—やはり、素顔は普通の17歳ですね(笑)。今、一番やりたいことは。アラームをかけずに眠りたい(笑)。東京五輪までは張りつめた毎日が続くと思いますが、終わったら一度休憩したいと思っています。



東京の「味の素ナショナルトレーニングセンター」で、多くの選手とともに練習に励んでいます



●陣馬の滝



富士宮市中心部の浅間大社を出発し、富士山の西麓を北へ。すると視界は一気に広がり、人気観光地の朝霧高原が見えてくるが、ここはあえて横道に入り、猪之頭地区の「陣馬の滝」を目指してみる。

頼朝ゆかりの清冽な水しぶき—陣馬の滝

五斗目木川ごとうめきがわの流域にある陣馬の滝は、上流からの水と溶岩層のすき間から湧き出す水が幾筋も流れ落ちる。鎌倉時代の初め、源頼朝が巻狩りの際に、滝の近くに一夜の陣を敷いたことからその名が付いたという。岩に囲まれた滝壺へ近づくと、全身がひんやりとした空気に包まれ、滝と川の流れる音だけが耳に響く。

水しぶきのマイナスイオンを浴びて心地よい時を過ごせば、疲れもストレスも一気に吹き飛んでしまう。このほか、頼朝ゆかりの湧水池として「おびん水」がある。有名な「白糸の滝」のすぐ近くに小さな窪地があり、そこには鏡のように美しく澄んだ泉が湧き出ているのだ。その水面で頼朝が髪の毛を直しという

伝説が残されている。苔むした岩とエメラルドグリーンの泉は幻想的で、富士講の霊場の一つとなっている。

猪之頭湧水群
朝霧高原に近い猪之頭地区は、富士宮市が指定する保存湧水池が七つもある自然豊かな地。1年中低温で湧出量も豊富な水は、マスの養殖やワサビ栽培などに利用されている。

●おびん水



猪之頭地区のいたるところで清流に出会い、ワサビ田が広がる



●十割そば・甘味処 さゝみ乃



ログハウスが目印。冬期は「そばがきおしるこ」や「みそおでん」が人気



信州のそば粉を猪之頭の天然水で打った十割そばは、香りもどごしも豊か。11時～15時営業、火・水曜休み

への誘い
富士山西麓
恵みの水を巡る旅



湧玉池の富士山御霊水の水汲み場では、持ち帰り用にペットボトルも用意されている



ひわだぶきの屋根、丹塗りの幣殿・拝殿は徳川家康の奇進によるもの



富士山の伏流水(ふくりゅうすい)が湧き出す湧玉池。カモなどの水鳥が生息し、住民の憩いの場ともなっている

富士山本宮浅間大社

全国に約1300社ある浅間大社の総本社。富士山を神体山として祀る「富士山信仰」の中心地。主祭神、木花之佐久夜毘売命にちなんで、境内には約500本の桜が奉納されている。



富士山本宮浅間大社
みそぎの場—涌玉池

水の都・しずおか。「神宿る山」と言われる富士山の西麓には雄大な大地が広がり、美しい水の湧く名所がたくさんある。浜松からおよそ1時間半、心と身体を清める旅に出た。最初に訪れたのは「富士山」信仰の対象と芸術の源泉」の構築資産の一つとして、世界遺産に登録されている富士山本宮浅間大社。まず境内の右奥にある富士山御霊水「湧玉池」へ向かう。富士山に降った雨や雪が溶岩の間から一日約20万トン、こんなと湧き出る湧玉池は吸い込まれそうなど透明度が高く、水底の水草がゆらゆら揺れる様子が美しい。

中世以降、富士山に登る修験者はこの霊水で禊まぎをして登山する習わしがあったという。現在は朱塗りの水屋神社の前に水汲み場があり、霊水を持ち帰ることもできる。水温は1年通して約13度、さらさらとした感触が心地よく、国の特別天然記念物、平成の名水百選にも選ばれている。

富士山の噴火を鎮めるため、母なる水の神「木花之佐久夜毘売命」を祀る浅間神社。徳川家康が造営したという本殿で道中の無事を祈り、次なる水の聖地へ向かう。



緑に囲まれた柴川で溪流釣り体験。1回1700円で楽しめる



約4kgまで育てた「大々鱈 紅富士(おおますあかふじ)」の標本。上質な脂と旨味が特徴の「紅富士」は、ブランド魚として人気を呼んでいる

湧水を利用した釣り体験—富士養鱈場

富士山の自然の恵みを受けた名産・名物は数々あるが、豊富な湧水を利用したニジマスの養殖もその一つ。ニジマス生産量は静岡県が全国1位で、中でも富士宮市の生産量は県内トップ。田貫湖からほど近い静岡県水産技術研究所富士養鱈場は、そんなニジマス養殖の世界を身近に体験できる穴場スポットだ。

場内には柵田のようにいくつも池があり、あちこちの池でニジマスが元気よく泳ぐ。池の水には天然バナジウムが多く含まれ、ニジマスには最適の水質だという。

敷地内の柴川では、溪流釣りのような雰囲気です釣りを楽しめる。



富士養鱈場
米国から移入されたニジマスの養殖を産業化するため、昭和8年(1933年)に開設。場内には見学室もあり、気軽にニジマスの生態を学ぶことができる。観覧料金は大人300円、中学生以下の子ども100円。



敷地内には富士山の湧水を引いた池が大小87面。それぞれの池で、ニジマスが大きさに飼育されている。

雄大な富士山を望む 絶景の地—田貫湖

富士山西麓を縦走する139号線はストリートロードともいわれ、富士山本宮浅間神社を起点に山梨県富士河口湖町の「本栖湖」「精進湖」まで続く。その道のりのすべてで富士山を間近に堪能でき、観光名所も多い。世界遺産に登録されてからは国内外で人気が高まり、途中の観光地でも多くの外国人観光客とすれ違う。富士山の楽しみ方は様々だが、次は数ある富士山絶景スポットの中から、静岡県民おすすめ十選の一つ、「田貫湖」へ立ち寄ってみる。

富士箱根伊豆国立公園内にある田貫湖は、周囲約4キロの人造湖。湖畔にはキャンプ場、自然体験ハウスなどが整備され、サイクリングやボート遊び、釣りなど、湖ならではのレジャーを満喫できる。

しかも西岸にある休暇村富士(ホテル)からは、湖面に壮麗な富士山がくつきりと映る「逆さ富士」を楽しめる。雄大な富士山を背景にした田貫湖は四季折々の自然に彩られ、まるで絵のように美しい。毎年4月、8月の20日前後には、山頂から朝日が昇る「ダイヤモンド富士」を観測することもできるという。



釣った魚は内臓とえらを取ってもらい、お土産に。夏から秋は、その場で塩焼きにして食べることもできる。

富士山の豊富な湧水、神秘的な滝、穏やかな湖、そして水の恵みを利用した養鱈場。様々な水の名所を巡る旅は、驚きと発見に満ちている。霊峰富士山は登ってもよし、眺めてもよし、伏流水の恩恵をいただくもよし。日々の生活に少々疲れを感じたら、ぜひ富士山西麓の水巡りで、リフレッシュしてはいかがだろうか。



田貫湖は富士山の観測ポイントとしても有名。湖面に映る逆さ富士が美しい

田貫湖
雄大な富士山と豊かな湧水に恵まれた朝霧高原の一面にある人造湖。昭和初期に農業用ため池として整備され、現在も900ヘクタールの水田を潤している。富士山撮影の東の定番が山中湖なら、西の定番は田貫湖と言われ、年間を通じて数多くのカメラマンで賑わう。



戦え天龍 浜松相撲風雲録

歴史万華鏡

昭和初期の角界で抜群の人気と実力を誇り、浜松出身者としては最高位の関脇まで昇進した名力士、天龍三郎。旧態依然とした当時の相撲界の改革を訴え、風雲を巻き起こした人物としても知られている。東京の大日本相撲協会に對抗して「大日本関西角力協会」を設立し、近代的な相撲道の確立を目指した天龍三郎の、波乱に満ちた生涯を振り返ってみよう。



人気投票第1位の美男力士

身長185センチ、体重103キロという均整の取れた体躯と、映画俳優のように整った顔立ち。天龍三郎は、当時の雑誌が行った人気投票で第1位、プロマイドの売れ行きもナンバーワンという美男力士だった。とくに女性からの人気が高く、近年の相撲界で言えば、若貴、寺尾、遠藤のような存在といえるだろう。

天龍の本名は和久田三郎。明治36年(1903年)、浜名郡神久呂村大久保(現在の浜松市西区大久保町)で生まれた。幼い時から体が大きく、大正6年(1917年)に大久保尋常高等小学校を卒業する頃には、身長176センチ、体重66キロの、怪童に成長していた。卒業式の日、三郎少年に「ぜひ会いたい」という人物が現れる。浜松に滞在していた元横綱常陸山、出羽海親方である。親方は緊張してうつぶく三郎に「相撲をやりたくなければ、いつでも両国へおいで」と告げて浜松を去って行った。その言葉に心を動かされた三郎だったが、父の反対もあつてすぐには角界入りせず、横浜の造船所重役宅に書生として住み込みながら、職工育成学校に通う。しかし、相撲への夢は断ちがたく、大正8年(1919年)10月、ついに「出羽海部屋」入門。翌年の5月場所では「三方ヶ原」の四股名で、序の口デビューを果たした。

「天龍事件」後、関西角力協会を設立

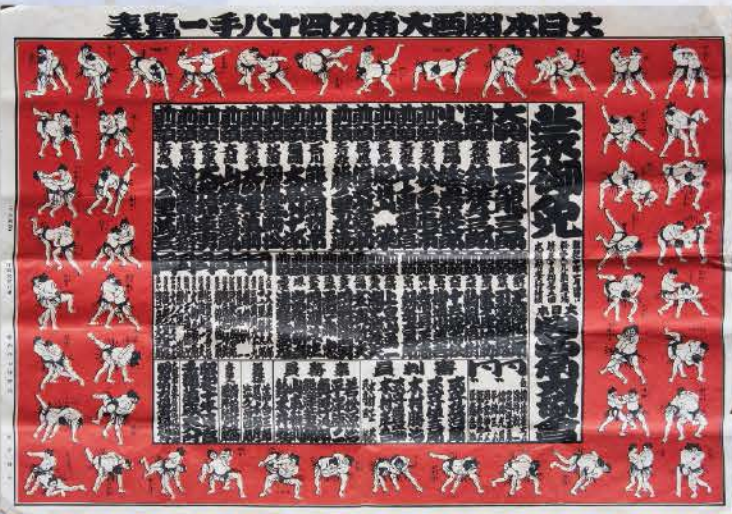
三方ヶ原はデビュー場所ですぐ好成績を挙げ、大正10年(1921年)1月、東序の口11枚目に昇進。四股名を「天龍」に改めた。その後は、そつぷ型(やせ型)のハンデを技と工夫で乗り越えながら精進し、昭和3年(1928年)1月には東十両10枚目で優勝した。同年5月、初土俵から足掛け9年で念願の入幕を果たす。そこから先はめきめきと力をつけ、上位陣と毎場所のように優勝争いを繰り広げた天龍は、昭和5年(1930年)5月、平幕から小結を飛び越えて一気に関脇に昇進。名実ともに角界を代表する力士へと飛躍した。

しかし、関脇となって相撲社会の内情を詳しく知ることにつれ、天龍の目にはこの世界特有の不合理な側面があらわになっていく。相撲協会の会計が不明瞭な上、力士たちは収入が低く、横綱でさえもタニマチ(ひいきの客)のご機嫌を伺わなければ生活できないほど困窮していたという。昭和7年(1932年)1月、天龍は出羽海一門の力士らの賛同を得て、十カ条の改革要求案を協会に付きつける。その主な内容は①協会の会計制度を確立し、その収支を明らかにする②養老金制度を確立す

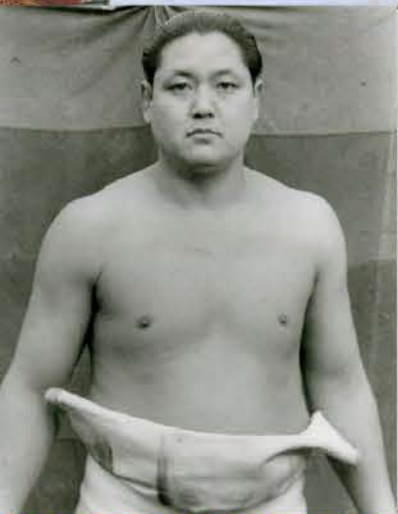
▲天龍三郎 原寸大の手形



▲床山に髻(まげ)を結わせる大日本相撲協会時代の天龍



▲大日本関西角力協会が運営で配った番付表。筆頭に「大関・天龍三郎」の名がある



▲ざんざり頭で土俵に上がった関西角力協会時代の天龍



る③力士の収入を増やし、生活を安定させるーなど。この要求案に協会は震撼し、やがて角界を二分する大騒動に発展する。これが世に言う「天龍事件」である。

結局、十カ条の要求案は受け入れられず、天龍ら31名の力士は協会を脱退し、断髪して決意を示した上で、新興力士団を結成。同年2月、東京でリーグ戦方式による全く新しい相撲興行を旗揚げする。そして約1年後の昭和8年(1933年)1月、天龍らは大日本相撲協会に対抗する「大日本関西角力協会」を大阪に設立したので。

武道の殿堂「鹿島神武殿」を建設

関西角力協会は、同年2月に大阪で第1回本場所を挙行する。

試合方法は勝ち抜きトーナメント、成績は点数制とし、この得点順位で次の場所の番付順位を決めるという革新的なものだった。同協会で大関となった天龍は東京など全国を回り、当時の満州・朝鮮にも慰問興行に訪れた。しかし、当初は盛り上がった関西角力の人気に、やがて陰りが見えてくる。その間に東京の大日本相撲協会は、後の大横綱・双葉山の台頭などにより、再び全盛期を迎えようとしていた。天龍は人気低迷からの起死回生を図って、相撲協会との東西対抗戦を企画したが、それが実現することはなかった。昭和12年(1937年)12月、万策尽きた関西角力協会はついに解散。失意の天龍は引退し、所属力士たちの身の振り方を見極めた上で、自らは知り合いの伝手をたどって満州に渡った。

新天地で天龍は相撲の普及に尽力したが、昭和16年(1941年)からの第2次世界大戦で、これも道半ばに終わる。終戦後、天龍は満州から引き揚げ、昭和25年(1950年)に東京で中華料理店「天龍」を開店。そして、昭和27年(1952年)からはラジオ東京(現在のTBS)の相撲放送の解説者を務めるようになる。その歯に衣着せぬ率直な物言いが人気を呼び、元力士による相撲解説の草分けとなった。やがて時は過ぎ、昭和53年(1978年)2月、天龍は私財を投じて一大事業を成し遂げる。武道の神として知られる鹿島神宮(茨城県)の隣接地に、柔道場、剣道場、相撲場などから成る「鹿島神武殿」を完成させたのだ。昭和58年(1983年)2月には神武殿の胸像が建立され、除幕式には車椅子姿の天龍も出席した。それから6年後の平成元年(1989年)8月、天龍は85歳の天寿を全うする。決して順風満帆の力士生活ではなかったが、若き日に掲げた相撲近代化の志は現在の大相撲にも受け継がれ、角界の歴史にその名は深く刻み込まれている。



▲ 関西角力協会の解散で別れの盃を挙げる力士たち



▲ 神武殿の胸像除幕式に出席した晩年の天龍(手前左)

浜松相撲
風雲録



探訪



の現場

(株)ヤマハミュージックリテイリング ピアノ調律

八十八の音色を操り 美しい演奏の下地を創る

浜松に受け継がれる匠の技の現場をまっしん職員が訪ね、レポートします。今回は、湖東支店の中道美香菜がペテランピアノ調律師の亀澤修己さんを訪ねてヤマハミュージック 浜松店へ。奥深い調律の世界を体感させていただきました。

REPORTER



浜松信用金庫 湖東支店
中道美香菜



お付き合いさせていたいただいて、お客様も多く、20年前はピアノを習い始めたばかりの小さな女の子だったのに、今ではピアノの先生として立派に活躍されているのを見たりすると、うれしくなりますね。それ以外にも、コンサートピアノや各施設の常設ピアノ、自動演奏ピアノなどを調律する

中道 浜松は音楽のまちなので、ピアノの普及率も高いと聞いています。私自身も3歳からピアノを習い始めたのですが、実は今までに一度も調律の様子を見ることがないんです。だから今日、調律の現場をお訪ねするのがとても楽しみでした。亀澤さんは調律の仕事に就かれてどのくらいになるんですか？

亀澤 今年で36年目を迎えます。調律の仕事は、一般のご家庭に赴いて行う場合が主になります。長い期間

機会もあります。調律の時間は、アップライトだと大体約1〜2時間、グランドピアノだと2〜3時間程度かかりますが、非常に集中力を要するので、1日に調律するのは、せいぜい4台が限界です。

中道 調律は大体どのくらいの期間で行うのが理想的ですか？

亀澤 ピアノの使用頻度にもよりますが、子どもが普通に練習する程度なら年に1回行うのが一般的です。中道さんもご存知のように、ピアノ



調律後のピアノを演奏してみると、調律前よりもクリアで明るい音色になっています

「調律」は一番時間のかかる作業です。まず基準の音を決め、1オクターブ分の音階づくりをしていきます。では、実際にどのような作業をするかお目にかきましょう。ピアノの中・高音部には、一つの鍵盤に対して弦が3本ずつ張ってあるので、1本でもずれていると音が乱れてしまいます。そこで、弦の音程が3本とも同じになるように、チューニングハンマーという工具を使ってチューニングピンを回しながら音の変化を耳で聞き分け、音の乱れを調整していきます。ほんのわずかな調整幅で音が微妙に変化するので、非常に

集中力が要る作業です。ちょっと中道さんもやってみませんか？

中道 はい。(音を確かめながらハンマーでピンを回す)：うーん、なかなかむずかしいですね。何度も音を聞いていると、どの音が正解なのかわからなくなってしまう(笑)。

亀澤 実際のところ、音を合わせる作業に慣れるにはかなりの時間を要します。経験を重ねて耳と手で覚えていくしかないですね。こうして「調律」を終えた後は、すべての鍵盤の音の立ち上がりや質感などを均一化する「整音」を行います。

中道 一連の作業の中で、特に気を

には88の鍵盤があり、1台に使われている部品数は約8000個に及びます。中でも、木や羊毛



フェルトなどの天然素材を多く用いているので、人間と同様に暑さや寒さ、湿気といった四季の環境変化にとても敏感なんです。冷暖房の影響で調整が変わってしまうこともある

中道 そんなに繊細な楽器を一体どのようにに調律するんですか？

つけていることはありませんか？

亀澤 演奏者によって音色もタッチも好みが違うので、それをしっかりと把握した上で調整していくことですね。コンサートではプログラムに合わせて音色を調整することもありますよ。たとえばコンチェルトの場合は、ピアノの音量がオーケストラに負けないように力強い音に調整します。ドビュッシーを演奏する時は音色をきれいに、など曲目に合わせて調整することもあります。

中道 それはすごいですね。調律によつて演奏自体を演出することもできるという訳ですね。

亀澤 ピアノはメーカーや機種、製造時期が同じでも、1台ごとに音色が異なります。それに、置き場所によつても音色が変わります。弾きにくいので調整してほしいのご依頼でうかがっても、ピアノの位置を変えるだけで問題が解決してしまう場合もあるんですよ。また、ピアノが1台1台異なるように、調律師が10人いれば十通りの音色になります。だから、調律の仕事にはこれがベースだというものがありません。いや、ベストだと思ったらそれ以上技術を向上させることはできなくなるので、一生勉強だと思って取り組んでいます。



調律には、整調・調律・整音という三つの作業があります。まず、「整調」では鍵盤の並びや運動量、タッチの不揃いなどを整えて、音を出すメカニズムを整備します。次に

中道 調律は本当に繊細で奥深い仕事なんですね。現場を拝見しながら亀澤さんのお話をうかがって、あらためてピアノの奥深さを実感することができました。本日はどうもありがとうございました。はましん湖東支店ロビーでは、私がピアノを演奏することもありますので、ぜひ一度お立ち寄りください。

こちらの取材の様子は、浜松信用金庫ホームページ内のはましんチャンネルのサイトにて動画でもご覧いただけます。中道さんの演奏も聴くことができます。



調律後にお客様が喜んで弾いてくれるのが一番の励みです

よい演奏は、よい調律に支えられていることがよくわかりました

探訪 匠の現場

天浜線 鉄道のおしごと編



「右よし! 左よし!」と見本を見せてくれました。子どもたちも真剣な表情で「右よし! 左よし!」。村松さんのまねをします。9時40分、3番線に到着した列車に乗り込むと、鐘が鳴りいざ出発進行! 列車はゆっくりと約200メートル先の転車台に向かいます。最初はお客様気分です。最初に座る子どもたちも、車両を洗う洗車機をくぐり、転車台が見えると思いきや、大興奮。そして列車はピットという点検場所まで停止しました。



さあ、最初の体験は車両点検です。全員ヘルメットと軍手を着用します。そこへ整備士の川島優一さんが登場。「車両担当の川島先輩のことをよく聞いて、検査を手伝ってください」。講師は村松さんからパトナタッチです。「みなさん、よろしくお願いします」。川島さんは優しい笑顔で車両の説明をしてくれます。「大きいな〜」子どもたちは目の前の大きな車輪をのぞき込みます。「今、みんなが乗って来た天浜線の列車は、3日に1回検査をします。車輪が変な風になっていないか確認をするんですよ。そして、このタンクの中は...「水?」「そう、よく知ってるね。天浜線は電車じゃなく自動車、軽油という燃料をいれま

大好評でスタートしたワクワクチャレンジ! 好奇心旺盛な地元幼稚園の園児たちに、「おとなになったらやってみたい!」と憧れるプロのお仕事を体験してもらいます。今回チャレンジするのは、子どもたちが大好きな鉄道のお仕事です。地域を結び、多くの人を運ぶ鉄道は安全が第一。普段見ることのできない場所を特別に案内していただきました。浜松の未来を担うキッズたちの奮闘ぶりをご紹介します!



「右よし! 左よし!」安全はぼくたちがまもるよ!

「天浜線 こと天竜浜名湖鉄道。朝9時30分、木造のレトロな雰囲気の中、天竜二俣駅待合室に集合した「ギッツチャレンジヤー」は、赤門幼稚園の美紗ちゃん、ななこちゃん、敦喜くん、そして浜松学院大学付属幼稚園の颯太くん、鉄太くん、識音梨ちゃんの6人。みんなちよつと緊張しながら職員さんを待ちます。「おはようございます」。制服姿がカッコいい本日の講師は、天浜線の運転士・村松基安さん。村松さん自身も小さな頃から鉄道が大好きで、ついに仕事にしてみました。今日、皆さんには二俣駅に入ってくる列車の点検を体験してもらいます。「ハイ、よろしくお願いします!」。子どもたちはどんなことをするのかドキドキしながら、村松さんの後ろについて移動します。まず、踏切の手前で一旦停止。「鉄道は安全が第一です。線路を渡る時は列車がいつ来るかわからないので、必ず目で見て、指を差して、声を出して確認します」。村松さんはそう言うと、右手の人差し指で左右を確認

後方確認
出発進行!!

回ってるっ

へえ、すごいな



「どっ？縮まっている？」。川島さんから聞かれると、「うーん」と悩む子、「縮まっている！」と元気よく答える子。反応は様々ですが、どの子の表情も、これから何が起るのか、ドキドキワクワクで一杯です。

「それじゃあ、今から全部のネジを叩く見本を見せます。よく聞いてくださいね」。川島さんは素早く見事な手さばきで、あちこちトント、コンコン、カンカン。「すげえー！叩く場所が音が違うのがわかり、子どもたちもビックリ。毎日叩いていると、ちよっとした違いがわかる」といいます。

列車の下回りの検査が終わると、次は上回りの検査です。再び列車に乗って、エンジンのかかり具合やドアの開閉などをチェックします。今回は、転車台で向きを変える様子を特別に見せてもらいました。相図でゆっくりグルグルと回り出す列車。「ワァ〜ッ！回ってる〜！」。回転する列車の上で、子どもたちは不思議な気分です。

そして、最後は運転士体験。なんと特別に制服を着せてもらうことになりました。再び運転士の村松さんに教えてもらいながら、一人ずつ運転席で機械のチェックをします。鉄道が大好きな颯太くんはハンド

ルを動かす大満足。敦喜くんはマイクのテストで大喜び。鉄太くんも「まもなく発車します」と得意顔。そして、恥ずかしそうにスイッチを押す識音梨ちゃん、しっかりとハンドルを動かすなこちゃん。男の子も女の子も最初は緊張していましたが、どんどん笑顔があふれてきます。こうして、下回りと上回りすべてを調べてOKならば合格です。

「みなさん、これで今日の点検体験は終了です。どうでしたか？」。楽しかった！「また乗りたい〜！」。みんな初めての体験に大喜び。

「今日は特別、貴重な点検体験ができたと思います。またお父さんお母さんと一緒に天竜線に乗ってくださいね。ありがとうございます！」。村松さん、川島さん、ありがとうございました！「村松さん、川島さん、ありがとうございました」。待合室に子どもたちの元気な声が響きました。

今回のワクワクチャレンジも大成功。まだ幼稚園の6人ですが、列車が安全に走るためには、様々な点検や確認がされているということを知り、ますます鉄道が好きになったようです。もしかしたら、この中から未来の天竜線の運転士さん、整備士さんが生まれるかもしれませんね。

本日のご協力

天竜浜名湖鉄道

天竜浜名湖鉄道は、掛川市の掛川駅から浜松市天竜区の天竜二俣駅を経て、湖西市の新所原に至る全長67キロの静岡県西部のローカル線。今回の舞台となった天竜二俣駅には、蒸気機関車時代に設置された可動型の転車台、扇形車庫が現存し、国の登録有形文化財となっている。面白い鉄道アイテムが展示された鉄道歴史館もあり、毎日開催される「転車台&鉄道歴史館見学ツアー」には、全国から鉄道ファンが訪れる。沿線には日本の原風景が広がり、のんびりノスタルジックな旅気分を味わえ、貸切イベント列車や1日フリー切符などもある。



浜松市天竜区二俣町
阿蔵114番地の2
TEL 053-925-2276



はままつ食味紀行
しそ巻き
幕末に誕生した遠州の素朴な味

文◎高橋秀樹



「しそ巻き知ってる？」と、周りの何人かに聞いてみたが大抵が首を振る。私が暮らす県東部では馴染みが薄いようだ。しかし浜松では、ごく当たり前の惣菜。遠州の郷土食だ。しそ巻きのルーツを辿ると旧東海道沿いにある六軒京本舗に行き着く。ときは幕末。鈴木京太郎が東海道を往來する旅人相手の茶屋を開いた。妻のまつは才知にたけた女性だったようで、地元で採れるしその葉で味噌を包む惣菜を考案した。唐辛子や麻の実など加えた味噌をしその

葉で巻き、竹串に刺し、胡麻油を刷いて炭火であぶる。すると、香ばしく野趣あふれる逸品が出来上がった。しかも日持ちがする。旅人の弁当のおかずとして人気を呼んだ。やがて口コミで広がり、遠州の特産品に。現在、しそ巻を製造販売している店は、六軒京本舗のほかにマツダ食品、霞川商店など数軒ある。六軒京本舗では、初代が考案したしそ巻の味を守っている。調味した味噌を赤しそで巻き、油を刷いて専用のカマドでこんがり焼いたもの

だ。ただ、時代は移り、味の嗜好も変わった。「今は青しそ(大葉)を使い、油で揚げたものが売れ筋」と五代目鈴木重彦さん。作業場を見学させていただいた。唐辛子や白胡麻、水飴などで調味された味噌を大葉で巻き、竹串を通す。それを180度に熱した菜種油で30〜40秒揚げる。油を含んだ大葉は色艶を深め、焼き海苔のようにパリッと仕上がった。揚げたてをいただきます。サクッとした食感の後に、しそ独特の清々しい香りが鼻を抜ける。

そして甘辛い味噌の味がやっつき、食欲を刺激する。炊きたてのご飯が欲しくなる。日本酒やビールにも合いそうだ。もうひとつ、ピーナツ味噌を青しそで巻いた一品。こちらはやや甘く、お茶うけにいける。大葉といえば刺身のツマや素麺の薬味といった脇役の影響が強い。しかし、抗菌作用や栄養価の高い和製ハーブ。味噌はいうまでもなく日本が誇る発酵食品だ。この二つの出会いによってしそ巻は、浜松の食卓で堂々と主役を張っている。

たかはし・ひでき ©フリーライター。旅、食、自然、農林水産業をテーマに活動。著書に「樹をめぐる旅」(宝島社)、「しずおか港町の海ごはん」(静岡新聞社)などがある。

来る年の豊年吉凶を占う「弓の舞」



「秋葉の火まつり」は、15日に「御阿礼祭」、翌16日には「例大祭」、そして夜10時からの「防火祭」でクライマックスを迎えます。三人の神職による「弓の舞」「剣の舞」「火の舞」は圧巻。まず初めの「弓の舞」は、舞人が弓を左手に、鈴を右手に舞い踊り、その後、神楽殿の中心から5本の矢を東西南北と中央の天井に向けて放ちます。この当たり方で、来る年の豊作や吉凶を占うとされています。

罪、穢れを切り祓う「剣の舞」



古来、人間にとって火は神秘かつ神聖なものとして尊ばれてきました。一方、人間には罪、穢れが知らず知らずのうちに生じます。「弓の舞」の次は「剣の舞」。はじめは左手に剣、右手に鈴をもって、地上の諸霊を鎮め、悪魔を抑える舞を奉納します。その後、左右に二振りの剣をとり、何度も力強く大きく振りかざしながら、罪、穢れを切り祓い、見事な舞を演じます。

火難・水難・諸厄諸病を祓いやる「火の舞」



しんしんと底冷えし、時には小雪が舞う夜の秋葉神社。最後に行われるのは「火の舞」です。本殿の奥深くに泰安されている「万年の御神燈」から火を移した松明が、神楽殿に運ばれます。松明を受け取った舞人は、それを頭上に振り上げてから足元に振り下ろし、闇の中に赤々と燃え盛る炎の狐を描きます。こうして1年の罪穢れ、火難、水難、諸厄諸病を祓い清め、人々の幸せを祈る行事は、年の瀬の浜松ならではの風物詩です。

DATA

秋葉山本宮秋葉神社
浜松市天竜区
春野町領家841
TEL 053-985-0111 (上社)

浜松市天竜区春野町の「秋葉山本宮秋葉神社」。霊験あらたかな火防の神を祀り、古くから人々の熱い信仰を集める。毎年12月15、16日に行われる「秋葉の火祭り」は見もの。

for your smile ~あなたの笑顔に逢いたくて~ 浜松信用金庫

【イジャ】
ija!
Vol. 12 Autumn & Winter 2017

まち・人・文化 地域情報誌 ija! [イジャ]は、地域のみならず浜松の文化的な魅力を発信し、心豊かな生活に役立てていただくよう発行したものです。
[イジャ]は遠州弁の「いじゃ(ざあ、行こう)」。
この地域にふさわしい、前向きで未来志向のメッセージをタイトルに込めています。

2017年10月発行

発行 ● 浜松信用金庫
〒430-0946 浜松市中区元城町114-8
Tel. 053-450-3250

ホームページ ● <http://www.hamamatsu-shinkin.jp>
編集・制作 ● 株式会社メディアトーク

